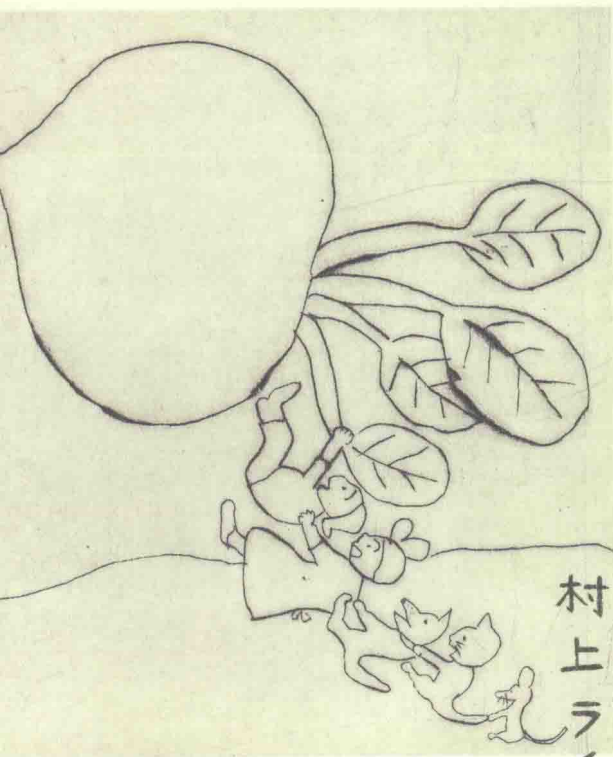


あおきな
かぶ、
むずかしい
アボカド

村上ラヂオ2



村上春樹
文
大橋歩
画



常州大学图书馆
藏书章

あ
あ
き
は
か
ぶ、
ボ
カ
ド
ラ
ヂ
オ
2

村上春樹 文
大橋歩 画

おおきなかぶ、むずかしいアボカド 村上ラヂオ2

二〇一一年七月七日 第一刷発行

著者 村上春樹 文

大橋歩 画

発行者 石崎孟

発行所 株式会社 マガジンハウス

〒一〇四—八〇〇三

東京都中央区銀座三—一三—一〇

受注センター ☎〇四九—二七五—一八一

書籍編集部 ☎〇三—三五四五—七〇三〇

印刷・製本所 大日本印刷株式会社

装丁 葛西薫

©2011 Haruki Murakami & Ayumi Ohashi Printed in Japan
ISBN978-4-8387-2250-1 C0095

乱丁本、落丁本は小社製作部宛にお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

定価はカバーと帯に表示してあります。

目次

まえがき 村上春樹

野菜の気持ち

10

ハンバーガー

14

ローマ市に感謝しなくては

18

パーティーが苦手

22

体型について

26

エッセイはむずかしい

30

医師なき国境団

34

ホテルの金魚

38

アンガー・マネージメント

42

シーザーズ・サラダ

46

いわゆるミート・グッドバイ
オリンピックはつまらない？

54 50

右か左か

58

究極のジョギング・コース

62

夢を見る必要がない

66

手紙が書けない

70

オフィス・アワー

74

無考えなこびと

78

やあ暗闇、僕の旧友

82

三十歳を過ぎたやつら

86

オキーフのパイナップル

90

まるで豹のように

94

もうやめちまおうか

98

悪魔と青く深い海のあいだで

102

タクシーの屋根とか

106

ちようどいい

110

新聞ってなに？

114

コミュニケーションが必要なんだ

118

月夜のキツネ

122

太宰治は好きですか？

126

他人のセックスを笑えない

130

本が好きだった

134

携帯電話とか、栓抜きとか

138

キャラメル・マキアートのツール

142

おいしいカクテルの作り方

146

あざらしのくちづけ

150

うなぎ屋の猫

154

ガラスの家に住む人は

158

ギリシャの幽霊

162

お一人様の牡蠣フライ

166

自由で孤独で、実用的ではない

170

おおきなかぶ

174

こっちのドアから入ってきて

178

アボカドはむずかしい

182

スーツを着なくちゃな

186

並外れた頭脳

190

『スキタイ組曲』知ってますか？

194

決闘とサクランボ

198

カラスに挑む子猫

202

男性作家と女性作家

206

ジューン・ムーン・ソング

210

ベネチアの小泉今日子

214

あとがき 大橋歩

おおきなかぶ、
むずかしいアボカド

村上ラヂオ2

まえがき

十年ぶりに戻ってきて

この本は「アンアン」に連載していた「村上ラヂオ」を一年分まとめたものです。順番は連載の通りになっています。僕は十年ほど前にもやはり「アンアン」で、同じタイトルの連載を持っていたのですが、そのあとは小説を書くのが忙しくて、とてもエッセイの連載どころではなくなっていました。でも長篇小説『1Q84』を三年がかりでようやく書き終えて、肩の荷が下りたというか、「久しぶりにエッセイをまとめて書いてもいいかな」という気持ちになりました。

小説を書くときには、小説家は頭の中にたくさんの抽斗ひきだしを必要とします。ささやかなエピソード、細かい知識、ちょっとした記憶、個人的な世界観（みたいなもの）……、小説を書いているとそういうマテリアルがあちこちで役に立ちます。でもそういうあれこれを、エッセイみたいなかたちではいはい放出してしまうと、小説の中で自由に使えなくなる。だからケチをして（というか）、こそこそと抽斗に隠してしまっておくわけです。でも小説を書き終えると、結局は使わずに終わった抽斗

がいくつも出てくるし、そのうちのいくつかはエッセイの材料として使えそうだな、ということにもなるわけです。

僕は本職が小説家であって、エッセイは基本的に「ビール会社を作るウーロン茶」みたいなものだと考えています。でも世の中には「私はビールが苦手で、ウーロン茶しか飲まない」という人もたくさんおられるわけだし、もちろん手を抜くことはできない。いったんウーロン茶を作るからには、日本でいちばんおいしいウーロン茶を目指して作るというのは、物書きとして当然の気構えです。でもまあ、そう言いながらも、僕としては肩の力を抜いて、わりに気楽にこの一連の文章を書きました。肩の力を抜いて、わりに気楽に読んでいただければなによりです。

毎回美しい銅版画を描いてくださった大橋歩さんに深く感謝します。どんな絵が添えられるのだろうと、毎週心待ちにしていました。それも連載を持つことの大きな楽しみのひとつでした。

村上春樹

目次

まえがき 村上春樹

野菜の気持ち

10

ハンバーガー

14

ローマ市に感謝しなくては

18

パーティーが苦手

22

体型について

26

エッセイはむずかしい

30

医師なき国境団

34

ホテルの金魚

38

アンガー・マネージメント

42

シーザーズ・サラダ

46

いわゆるミート・グッドバイ
オリンピックはつまらない？

54 50

右か左か

58

究極のジョギング・コース

62

夢を見る必要がない

66

手紙が書けない

70

オフイス・アワー

74

無考えなこびと

78

やあ暗闇、僕の旧友

82

三十歳を過ぎたやつら

86

オキーフのパイナップル

90

まるで豹のように

94

もうやめちまおうか

98

悪魔と青く深い海のあいだで

102

タクシーの屋根とか

106

ちようどいい

110

新聞ってなに？

114

コミュニケーションが必要なんだ

118

月夜のキツネ

122

太宰治は好きですか？

126

他人のセックスを笑えない

130

本が好きだった

134

携帯電話とか、栓抜きとか

138

キャラメル・マキアートのツール

142

おいしいカクテルの作り方

146

あざらしのくちづけ

150

うなぎ屋の猫

154

ガラスの家に住む人は

158

ギリシャの幽霊

162

お一人様の牡蠣フライ

166

自由で孤独で、実用的ではない

170

おおきなかぶ

174

こっちのドアから入ってきて

178

アボカドはむずかしい

182

スーツを着なくちゃな

186

並外れた頭脳

190

『スキタイ組曲』知ってますか？

194

決闘とサクランボ

198

カラスに挑む子猫

202

男性作家と女性作家

206

ジューン・ムーン・ソング

210

ベネチアの小泉今日子

214

あとがき 大橋歩

野菜の気持ち

『世界最速のインディアン』という映画の中で、アンソニー・ホプキンス演じる老人が、
「夢を追わない人生なんて野菜と同じだ」と言っていた。

しばらく前に見た映画なので、細かいところは違っていてもいいけど、だいた
いそういう趣旨の発言だと記憶している。彼は「インディアン号」という骨董級のバイ
クを改造して時速三百キロを出すことを人生の目標にしている超ファンキーなじいさん
で、隣家の男の子に向かってそう言う。なかなかカッコいい台詞せりふですね。

でも話はそこですんなりとは終わらない。男の子は「でも野菜って、どんな野菜だよ？」
と聞き返す。そういう意外な突っ込みをされるといっさいもけっこう困って、「ええと、
どんな野菜かなあ。そうだなあ、うーん、まあキャベツみたいなもんかなあ」と話がっ
いゆるい方向に流れてしまう。僕はだいたいにおいてそういう話のへたり方が好きなの
で、だからこの映画にわりに好感を持った。「夢を追わない人生なんて野菜と同じだ」
で話がすっと終わっちゃうと、たしかにかっこいいかもしれないけど、それでは野菜の